

今川の里を歩く  
(源から足利へ吉良へ今川へ)

<1> 足利氏の誕生

清和源氏の流れから出た下野守の源義康は、天治2年(1125年)に源義國の次男として京都で生まれた。父義國の死後、下野國の足利荘と築田御厨を承継して、足利氏を名乗った。(足利氏の始祖)足利義康は、保元の乱で活躍し、足利家の統治者として期待されていたが、保元2年(1157年)に31才の若さで病没した。

義康の子である義兼は久寿元年(1154年)に生まれたが、(前記のように)父が他界したため3才で所領を継承して足利家二代当主となった。治承4年(1180年)源頼朝の挙兵とともに、鎌倉に入り頼朝の側近となった。治承5年(1181年)頼朝の命により北条時政の娘(北条政子の妹)時子と結婚。建久6年(1195年)に出家して東大寺の僧となった。

義兼の後は、三男義氏が足利家三代当主となった。義氏は幕府の要職には就かなかったが、北条義時・泰時親子を手厚く補佐して貢献した。

足利家四代当主は、義氏の子泰氏が承継した。足利家本流はこの四代後に足利尊氏の登場となる。

<2> 今川氏の誕生

義氏の長子だが側室の子だった長氏は、三河國吉良荘を受け継ぎ吉良氏を名乗った。(吉良氏始祖)吉良長氏の次男である國氏が、吉良氏の所領から今川荘(現在の愛知県西尾市)を分与されて、今川四郎國氏を名乗ったのが、今川氏の始まりと言われている。

三代目当主の今川範國は足利尊氏の家臣として各地で戦功を上げて、1336年の足利幕府成立にあたり大きな役割を果たし、駿河に領地を得た。

今川範國の長男範氏は今川本流を継いで四代当主となり、駿河今川氏の祖となった。

次男貞世は遠江今川の祖となり、三男氏兼は蒲原氏を、四男仲秋は國泰氏をそれぞれ名乗った。

戦国武将として名を馳せた今川義元は十一代の当主で、義元の子氏真(うじざね)が十二代、氏真の孫直房が十三代当主となった。

十三代当主の今川直房は、文禄3年(1594年)に京都で生まれた。父範以(のりもち)を幼くして亡くし、祖父氏真に育てられた。祖父に伴って徳川家に入入りし、徳川家康にも目をかけられていた。

直房は、祖父氏真の死後500石の家禄を受け継いだ。

直房は、4代将軍徳川家綱にも仕えて左近衛少将(さこんえのしょうしょう)となり、鎌倉・室町・江戸の三時代にわたって活躍した今川家の中では最も高い地位に昇り、今川家中興の祖と言われた。

寛永10年(1633年)には、幕府における儀式や典礼を司る旗本である「高家(こうけ)」の任務に就いていた。徳川家康の死去に伴って、「東照宮」の宮号を得るにあたり、正保2年(1645年)酒井忠勝とともに使者としてその役割を果たした。

その功により、徳川家光から武蔵國多摩郡井草村・上鷲宮村・豊島郡中村の三ヶ村(500石)の加増を受けた。その結果、今川家の所領は、近江國野洲郡長島村の500石を合わせて、1000石となった。武蔵・豊島の三村の領域は、現在の地図で確かめると、練馬区中村を東端として杉並区善福寺を西端とし、環状8号線を中心に置いた東西に広がるエリアだった。

また、祖父氏真の墓を井草村の観泉寺に移し、寺の開基を氏真として今川家代々の菩提寺とした。

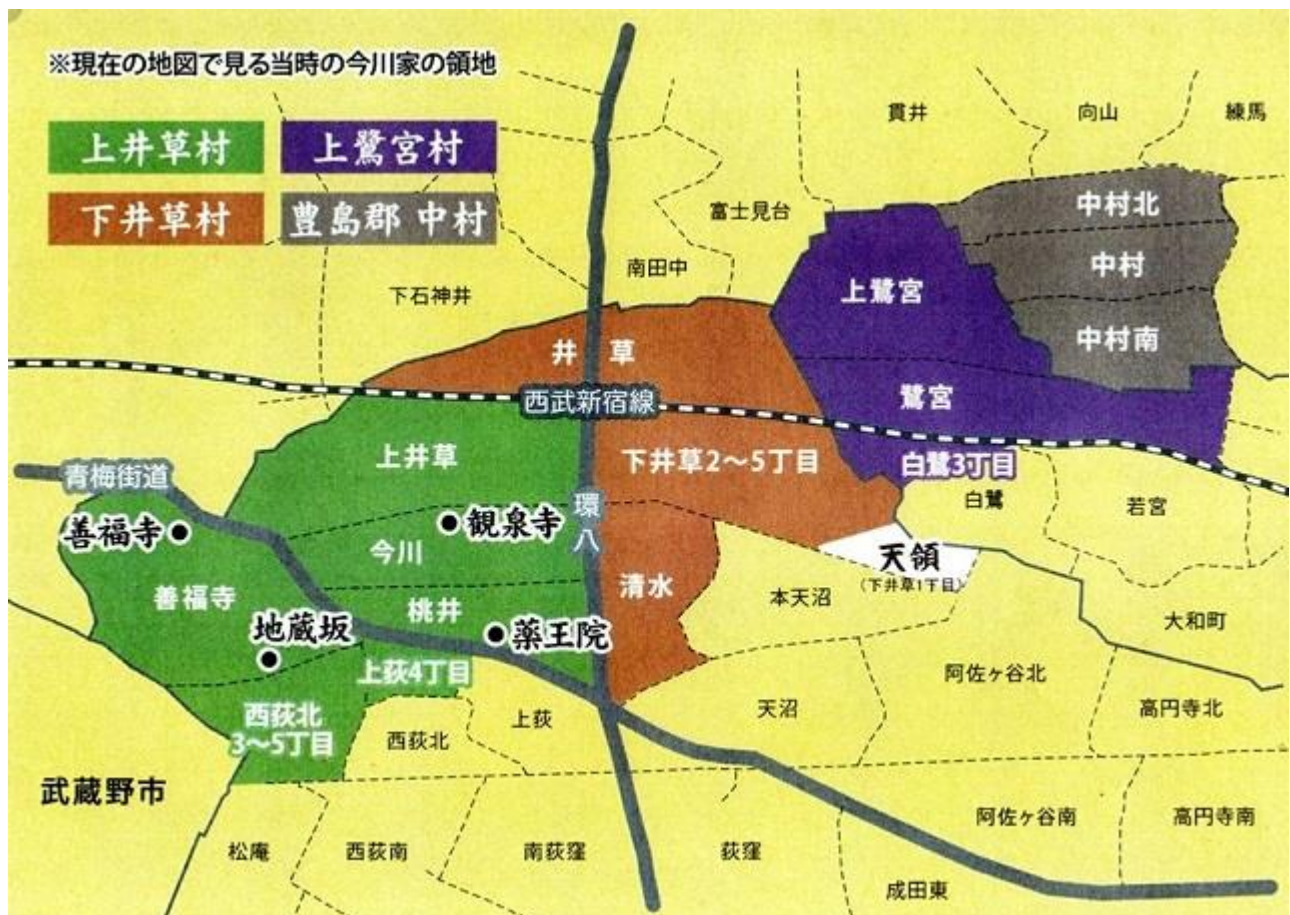
今川直房は、寛文元年（1660年）に享年68才で死去し、市ヶ谷の長延寺に葬られた。長延寺は高家今川家の代々の墓所となった。

### <3> 井草村から今川町へ

井草村は今川氏の領地になったことにより様々な体験を強いられた。

今川氏の家臣は30人程度だったが、高家としての役割を果たすにあたり150人余りの随行員を編成しなければならず、村人が多数動員された。またこれに伴う費用を村に負担させることも多く、一帯は幕府の鷹狩り場としても使われており要人の来訪が多く、村人への負担は数知れぬ状況だった。これらの対応により今川家は村にも借金をすることになり、間に入った名主がかなりの苦勞を強いられたという話が残されている。

明治22年（1889年）の町村制施行により、「今川氏領地だった土地」は東多摩郡井荻村の一部となった。大正15年（1926年）に豊多摩郡井荻町となり、昭和7年（1932年）に杉並区今川町が起立した。旧井草村の内、今川氏の屋敷等があり、菩提寺がある「ゆかりの深い地域」が今川町となった。



### <4> 荻窪駅から旧井草村へ

荻窪駅からバスに乗って旧井草村方面へ行って見た。

今川家の歴史と関わりのあるものや地名に出遭うし、不思議な地名も見つかって面白い。

#### ●四面道

荻窪駅を出て青梅街道を走るバスが環状8号線を渡る所が「四面道交差点」。

天沼・下井草・上荻窪・下荻窪の四ヶ村が接する交差点に秋葉堂があり、四面堂と呼ばれていたという説と、秋葉堂の境内にあった常夜灯が四ヶ村を照らしていたことから四面燈と呼ばれていたとする

説などがあるが、どちらが正しいのかはわからないらしい。

#### ●八丁(はっちょう)

荻窪駅から青梅街道を進むと「八丁」という交差点があり、バス停もある。今川家の屋敷があった所で、その長さが八丁あったことから俗称地名が生まれたという説があるが、屋敷の面積が八町歩あったことによるという説もあり、どちらが真説かわからない。

青梅街道の北側に陣屋があったと言われているが、遺構は残っていないので詳細は不明。

青梅街道の八丁交差点から、今川の早稲田通りの四宮交差点まで約1Km。南北に走る直線の道は、何か意味ありげに感じる。この辺り一帯に広がる東西南北に整然と配列された区画は、武家屋敷の名残とも考えられる。

#### ●薬王院

荻窪警察署の西側にある、桃井二丁目の薬王院は観泉寺の境外仏堂として建てられた。

正式名称は玉光山薬王院。1719年に今川家の祈禱所となったが、江戸時代後期には、その管理は寺に任せられるようになり、住職の隠居所になり寺子屋にもなった。

明治8年(1875年)に桃園学校第二番分校となり、現在の桃井第一小学校の歴史の始まりとなった。

#### ●荻窪八幡

荻窪駅から青梅街道を進むと、荻窪警察署前に荻窪八幡神社があり、その横に秋葉神社(\*)がある。旧上荻窪村の鎮守で、寛平年間(890年頃)の創建と言われている。永承6年(1051年)に源頼朝が奥州征伐(前九年の役)で北進するときに、この地で戦勝祈願をし、凱旋の折にもお礼参りをしたという言い伝えがある。(※秋葉神社:四面道の項参照)

#### ●井草八幡

歴史資料の記述によれば、井草村周辺には縄文時代から人が居住していたと言われている。

井草八幡が祀られたのは平安時代末期で、当初は春日神を祀っていたが、源頼朝が奥州征伐に出向くに際して戦勝を祈願して八幡宮を合祀したとの言い伝えが残されている。

頼朝が奥州から帰還した折、干ばつで渇きに苦しむ兵達を見て弁財天に祈って弓で土を掘ったが、水が湧き出たのは大分遅かったことから「遅野井」の地名が生まれて「遅野井八幡」と言われた。

太田道灌が石神井城に攻め入る時に戦勝祈願をしたり、歴史年表の上での様々な場面で登場する神社だった。江戸時代に入っても徳川家の庇護を受けて、寺社奉行井上正利が力を振るっていた。

個人的な記憶だが、何年毎かに流鏝馬が行なわれており、吉祥寺に住んでいた頃に見たことがある。

#### ●善福寺

善福寺池と青梅街道の中間にあり、正式名称は、曹洞宗福寿山善福寺。創建時期は不明だが、元は無量山福寿庵という浄土宗の寺だったらしい。宝永6年(1709年)に観泉寺(\*後述)の元に曹洞宗に転宗したらしい。墓地には浄土宗時代の住職の墓も残っている。

転宗後も无量山福寿庵という寺名だったが、昭和17年(1942年)に善福寺と改称した。

かつて現在の善福寺池の岸の丘の上には、善福寺・万福寺の二つの寺があったが地震でなくなってしまい、善福寺池という池の名前だけが残っていたことから、福寿庵の改称時に善福寺という名が採用された。

#### ●観泉寺

正式名称は、曹洞宗宝珠山観泉寺。慶長2年(1597年)に中野の成願寺住職鉄叟雄鷲(てっそうゆうさく)によって、観音寺として創建された。

元和5年(1619年)大友義親が亡くなった時に、子がなく跡継ぎもないので妻(今川範以の三女)は剃髪して観音寺に入った。

正保2年(1645年)に彼女の弟である今川直房が井草村一帯の領主になった。(前述)  
直房は寺を現在の位置に移転して伽藍の建て替えなどをして、寺領を寄進して寺名を観泉寺と改称。

#### ●三谷(さんや)

上井草村の字地名「三屋」が起源。ここに草分けの百姓家が三軒あったことから「三軒家」という地名が生まれたが、口伝の内に略されて「三屋」となった。

昭和7年に三谷町として起立したが、現在の「XX何丁目」という味気ない地名に変わってしまった。  
現在は、小学校の名前として残っている。(三谷小学校)

#### <4> おすび

30年ほど前に知り合った友人が、杉並区今川という所に住んでいた。時々マラソン大会で一緒に走ったり、手紙のやりとりをしたりしてはいたが、自宅を訪ねたことは一度もなかった。郵便物に住所を書く時に、いつも「今川」ってどんな所だろうと思っていた。

その男も遠くへ転居してしまい、このところ音信も途絶えている。

青梅街道の南側は何度か訪れており、住んでいたこともあるので歴史も今もいづらか知る機会があったが、北側の町には足を踏み入れる機会は少なかった。

この秋、今川3丁目にある都立農芸高校の学祭(農芸祭)を見物する機会が巡ってきた。

青梅街道の井草八幡前交差点から早稲田通りを高田馬場方面へ進むと、今川三丁目に広大な敷地の都立農芸高校がある。

明治32年(1890年)に、豊多摩郡中野町他13ヶ村組合立農業補習学校として設立許可申請が出されて、明治33年(1891年)東京帝国大学農科大学付属農業教員養成所補習校として中野に開校した。

明治42年(1900年)に豊多摩郡立農業学校となり、昭和3年(1928年)、東京府立農芸学校に改称し、現在の場所に移転。

東京都にある一番古い農業高校で、農業に関する専門的な学習を通じて次代の農業とその関連産業の技術者を養成する学校とのことだった。(学校のホームページに記載)

出かける前に、この町のことを色々調べて見たら、歴史を遡ると面白そうな町だとわかった。

そして行って見たら、想像以上に興味深い町だった。

以上